

二ツ切縦畫で、七里ヶ濱から江の島を見た處、構圖は日本畫的である。島と小松原の前景との連絡が、今少しどうにかありたいと思つた、二ツに切つたら二枚の畫になるやうな氣がした、前景の松原も上から見下したやうな感じが不充分であつた、しかし、波うち際や海の色も穏やかなり、全體に調子が整つて、湘南の曇つた日を思はせる手際は感服である。

二一 日向和田 藤島英輔氏

四ツ切横繪で、日向和田の高處から夏の多摩川流域武藏野を眺めた圖である。少しく色は寒く思はれたが、遠近の調子はよく出てゐる、氏近來の傑作だと思ふ。

二二 ティムス河畔ウインゾル 三宅克己氏

四ツ切程の縦畫で、建物が主として畫かれてある。氏が外遊後の作で、一番新らしく吾人の目に映じたものである。うち見たる處、前の畫風と相違した點が多いが、此畫は外遊前の作よりよいとは思はれない、潤澤の無いこと、固いこと、やゝ一本調子の描き方など、悪いと思ふ方が余計に目につく、空の工合も面白くない、十數年前、京都あたりで寫された時のやうな畫風に何となく似通つてゐる點がある。併し、氏も猶研究中であるから、此作を以て氏の近業を批判するのではない。

二三 讀書 赤城泰舒氏

二ツ切縦畫で、單衣着たる少女の、讀書に倦いて二階の窓から外を見てゐる處である。すら／＼と無難の出來で心持がよい。そしてモデルの見方に同情と親切が満ちてゐるから、空虚が無

い。位置に少しく注意を拂つたなら申分がないと思はれた。要するに、今年の展覽會に於ける水彩畫は、昨年比してたゞに陳列場の佳良となりしのみでなく、作品にも慥に一段の進歩が見える。又水彩畫本來の性質として、あまり畫幅の大なるものは好ましくないが、本年は小畫面に於て佳作を多く見たのは愉快である。この展覽會の出品者は、二三を除いては何れも青年有爲の人々である、明年は水彩畫界の爲めに猶一層の奮發を希望する。

談 片

竹柏園主人の歌の手引を見ると『ある時野州の方へ茸狩に往つた、案内してくれた人はイクラも見つけるが自分には何處にあるか少しも分らぬ、案内者は見兼ねて、ソラ足下にありますといふ、それでも分らぬ、終には二尺程の圓を畫いて此中にありますといふ、それでもやつぱり分らなかつた』といふ。歌にすべき材料はこの茸の如く足下に生へても素人には見出せない。寫生でも同じことなり、寫すによき題目は實に諸君の目の先に轉がつてゐるが、それが中々發見されなくて、わざわざ遠方迄重い道具を擔ぎ出しおまけにあれてもないこれでもない一日ぶら／＼何もせて過して仕舞ふのだ。